

令和2年

自己点検

及び

自己評価項目

学校法人つくば文化学園

日本つくば国際語学院

# 自己点検・自己評価項目

実施責任者  
日本つくば国際語学院  
教務主任 杉本 和昭

## 評価基準

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取組を検討中 1:改善が必要

### (1) 教育理念・目的等

評価項目	評価
学校の理念・目標は定められているか	5
育成人材像・特色などが明確になっているか	3
理念に基づいた人材教育が行われているか	3
理念と教育目標が職員や生徒・保護者に周知されているか	4
現状と具体的な取り組み及び課題について	
自国の文化や習慣、価値観に固辞する学生に、日本でのルールを理解してもらえよう教育の一環としてオリエンテーションを行っている。本学の教育理念である「楽しく日本語を学び、日本を好きになってもらおう」というのは教職員や学生に理解されている。今後は未入国の学生や保護者にも理解してもらえよう継続して取り組んでいく必要がある。人材育成の具体的な教育方針に関しては明確であるとは言い難い。	

### (2) 学校運営

評価項目	評価
運営方針は定められ、職員に周知されていて実行しているか	5
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	5
中長期的に学校の予算・収支計画は有効かつ妥当か	3
運営組織や意志決定機能が確立され、効率的なものになっているか	4
人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	5
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能は整備されているか	5
危機管理体制及び施設・設備は教育上の必要性和学生の安全確保に十分対応できる よう学校教育法に基づき整備されているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
学校運営の基本的な方針に関しては教職員に周知され、それに沿って事業計画も策定されている。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響のため、中長期的な予算や収支計画の見通しは	

不透明な状況である。そのため本学は本社に対し、より迅速かつ正確に「報告・連絡・相談」を行い、情報共有をしていくことが求められる。危機管理体制に関しては災害対策マニュアルを作成し、教職員・学生と共有を図った。尚、人事と賃金に関しては本社の管轄であるため評価はできない。コンプライアンス体制は、朝礼や職員会議を通し職場内で一定の理解はなされている。

### (3) 教職員

評価項目	評価
教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
教育目標を達成するための取り組みがされているか	4
教職員の評価を行っているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
現状と具体的な取り組み及び課題について	
<p>教育理念や教育方針及び目標は、これまで通り大きな問題はない。教職員への評価基準や研修等に関しては十分とは言い難いものの、現状の体制を踏まえると精一杯だと考える。教務と事務、常勤講師と非常勤講師との間で常に話し合いの場は設けられているので、何か問題が発生した際にはすぐ対応できる環境は整っている。</p>	

### (4) 教育活動

評価項目	評価
進学のためのカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実践されているか	3
学習理解の到達度の確認はされていて成績評価は適切か	5
教育目標に適合した教材や機器が使用されているか	4
各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	5
目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
<p>時代と共に日々変化し続けている現代社会において、教育活動もそれに対応していかななくてはならない。進学のためのカリキュラム作成や教材分析・開発は教務主任と専任講師が中心となり、非常勤講師とも共有を行っている。しかし、授業のコマ数の増加にともない、そうした教育活動に割く時間が限られてきているうえ、日々の授業を省みることも減少しているのは今後の課題として残る。今年度は新型コロナウイルスの影響により、オンライン授業を始めとする新たな取り組みも始まった。その取り組みは現在も継続中であり、次年度に評価することとする。各種日本語試験の指導は、これまでの実績と経験を活かし問題なく進められている。</p>	



## (5) 学生支援

評価項目	評価
進学に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
学生寮、学生の生活環境への支援は行われているか	5
経費支弁者や、個人で学生を紹介してくれた人と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	-
現状と具体的な取り組み及び課題について	
<p>学生の進学・健康管理・寮管理の相談は教職員一同が協力して対応しているため、大きな問題は発生していない。また経費支弁者や個人で学生を紹介してくれた人とも適切に連携している。2か月に1回、学生面談と寮チェックを行っており、現状の体制での学生支援は十分だと考える。卒業生への支援体制はないため現時点では評価できない。</p>	

## (6) 学生募集と受け入れ

評価項目	評価
学生の受け入れ方針は定まっているか	3
学生募集活動は適切に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正しく伝えられているか	4
入学選考は、適正かつ公平は基準に基づき行われているか	5
学生定員設定は適正及び在籍者数になっているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
<p>学生の受け入れに関しては本人と面接を行い日本語力と経費支弁、目的について詳しく聞いた上で選考している。また仲介業者や紹介者にも可能な限り来校してもらい、面談をして募集活動を行っている。</p>	

## (7) 在籍管理と生活指導

評価項目	評価
学生の生活指導責任者及び入管事務担当者が特定され、学生に周知されているか	5
我が国の法令を遵守させるための指導は行われているか	5
学生が母国と日本の文化の違いを理解するための指導やアドバイスが行われているか	5
入国・在留関係の管理や指導と支援が適切に行われているか	5

常に学生の最新情報を把握しているか	4
現状と具体的な取り組み及び課題について	
定期的に面談とオリエンテーションを実施している。言葉が通じない学生に対しては通訳を用意し、理解してもらうために適切な対応をとっている。学生面談やクラス授業を通じて学生の最新情報は可能な限り把握するよう努めている。	

#### (8)安全・危機管理

評価項目	評価
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	5
感染症発生防止・発生時の措置を定めているか	5
防災に対する体制は整備されているか	5
災害時に対する避難訓練を定期的実施しているか	2
災害時の避難経路、方法、場所を定めているか	4
現状と具体的な取り組み及び課題について	
近年、災害が頻発していることから防災マニュアルを作成し、学生への周知と掲示を行った。既に災害時に必要な備品は購入しており、いつでも利用できる状態にしてある。今後は避難訓練を通して実際に避難場所等の確認が必要である。新型コロナウイルスの対応として、検温・消毒・清掃・学生への注意喚起は徹底している。	

#### (9)財務

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
財務について会計監査が適切に行われているか	5
財務情報公開の体制整備はできているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
財務関連については母体である学校法人ページ上に公開し、適切に管理・整備されている。	

#### (10)法令等の遵守

評価項目	評価
法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5



自己点検・自己評価結果を公開しているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
茨城県、学校法人、法務省の運営基準をもとに、適正な運営を行った結果、適正校として継続を続けている。個人情報の取り扱いには職員会議などで十分注意するよう確認している。自己点検・自己評価の公開に関してはホームページ上で公開している。	

#### (11) 社会貢献

評価項目	評価
学生の教育資源や施設を活用した社会貢献に努めているか	5
学生のボランティア活動を奨励・支援に努めているか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
新型コロナウイルスのため、社会貢献活動を実施するのが難しい状況下であるが、市や国際交流協会と連携し、学校として可能な範囲で活動は行っている。今年度は語学交流に参加し、学生に社会貢献の大切さを伝えた。	

#### (12) 総括

本校が掲げる「楽しくに日本語を学び、日本を好きになってもらおう」という教育理念を教職員一同が理解し、日々教育を行っている。昨年と比べ、より学校全体が賑やかな雰囲気になり、学生からは口々に学校が楽しいという意見が聞かれた。

学生が楽しく勉強に集中できる環境になったため、クラスとしての一体感が生まれた。正規生と一般生の結びつきも強固になり、共に学ぶことによって相乗効果も得られた。教務と事務が個々の学生の現状を把握し、連携を取りながらサポートしていった結果、多くの学生が進学先に進むことができた。

学校法人として、茨城県、法務省の法令や基準を満たし、適正校として今後も運営を継続していくことで茨城県を代表する日本語学校になることが我々の責務であると考えている。

今年度は新型コロナウイルスの影響でこれまでの考え方や働き方が一変してしまった。様々な変化に対応せざるを得ない中、依然として業務の効率化・ICT環境の整備は進んでいない。コロナ禍によって、中長期の見通しが立てにくい状況である今、どのようにして組織としてのチームワークを発揮し、推進していくかが今後の課題である。